

のないことや、常に情緒が不安定であることから、3人で互いにまとまって支え合っているグループである。

そのために、次のことに留意した。

- ① 個別に面談を続けながら本人の気持ちを受容する。
- ② 3人グループを受け入れるような、相互支持的学級づくりをする。
- ③ 学級会、行事等では、学校生活に明るさとリズムをもたせるように特に配慮する。

これらの指導から、学級集団への帰属意識が高まり、協力し合って目標を達成するために努力するような、凝集性の高い学級が形成されていくと思われる。

● 凝集性の高い学級の状態とは

- ① 意見の一致があって、調整がうまくいっていること。
- ② 失敗しても、責任を負わされたりしないし、誰かに支配されるようなことがないこと。
- ③ 学級内のコミュニケーションが十分で、楽しい雰囲気があり、抑圧されることがないこと。

学級におけるA男、B男、C男の社会的位置を、ソシオメトリック・テスト（班編成のため4月に実施）の結果で検討しなおしてみた。

なおソシオメトリック・テストは、集団理解に生かしていくため学年全体で実施したものである。

そこで、構造マトリックス、個人関係図等をもとに、図1のようなA男を中心とする人間関係が浮き彫りにされた。

学年会では、次のような解釈と指導の方策を話し合った。

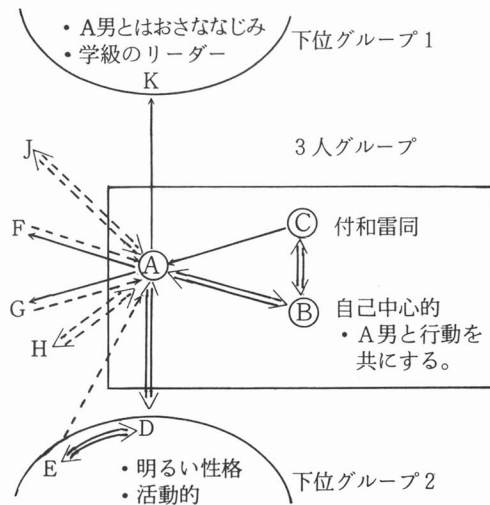
- ① A男たちの集団は孤立傾向にあり、A男がリーダーになって、B男とC男が一緒に行動している。
- ② K男は、学級のリーダーであり、A男とはお

さななじみである。

K男はA男を排斥していないことから、A男の規範性を育てていくために、いろいろな活動場面でA男との関係を深め、援助させる。

図1

＜A男の学級集団における人間関係＞



◄==>相互選択, ←選択, <---排斥, <==>相互排斥

- ③ A男は明るい性格で活動的なD男と、相互選択している。このことから、D男の所属している集団に入れ、集団内での協調性を育てていくと共に、孤立しつつある3人の集団の人間関係の改善を図っていく。

(3)について

- ① 担任と親との信頼関係を図り、連絡を取り合う。
- ② 担任から、本人たちの活動状況のよい面を家庭へ連絡することによって、家庭で本人に対する見方が変わるようにし、親子の人間関係を深める。

学年主任はこれらのことを、校内生徒指導協議会に報告し、指導体制等を確認した。

5 校内球技大会をきっかけに